

氏名	守 谷 欣 明
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 172 号
学位授与の日付	昭和40年 9 月30日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	クロロキンによる気管支喘息の臨床的並びに薬理学的研究 第1編クロロキンによる気管支喘息の治療に関する研究 第2編気管支喘息に対するクロロキンの作用機序に関する研究 第3編クロロキンの線維芽細胞抑制作用に関する研究
論文審査委員	教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫 教授 山 崎 英 生

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

クロロキンを気管支喘息の治療に応用し、多数の症例について臨床的検討を行い、又本剤の作用機序を解明する目的で本剤の薬理作用について実験的検討を行った。第1編において600余例の本症患者について最高4年に亘り本剤の長期経口投与療法を行った結果、重篤な副作用なく、あらゆる種類の喘息発作に対して著効約40%、有効約50%の治療成績が得られた。又本療法におけるクロロキンの体内推移がほぼ一定の血漿中濃度を維持し、肝、脾、肺に高濃度に分布することが認められた。第2編においてモルモット摘出腸管、ラット後足の炎症性浮腫及びモルモットの受働性皮膚過敏症により本剤の薬理作用について検討を行った結果抗セロトニン作用は認められなかったが、抗ヒスタミン作用、抗炎症作用及び抗アレルギー作用が認められた。第3編において組織培養により、本剤の鶏胎児心線維芽細胞及びL細胞の増生に及ぼす影響を検討した結果、強力な線維芽細胞抑制作用が認められた。又本剤のL細胞の呼吸に対する抑制作用が認められた。

以上本療法は、気管支喘息に対する劃期的な新治療法と考えられ、又以上明らかにされた本剤の薬理作用は本症に対する作用機序として重視すべきものと考えられる。

3編共に昭和40年9月30日付発行岡山医学会雑誌 第77巻8・9号に掲載予定

論文審査の結果の要旨

守谷欣明提出の「クロロキンによる気管支喘息の臨床的並びに薬理学的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

著者は、先ず第1編においてクロロキンを独自の立場から気管支喘息の治療に応用し、600余例の本症患者について最高4年に亘り本剤の長期経口投与療法を行い、重篤な副作用なく、あらゆる種類の喘息発作に対して著効約40%、有効約50%の治療成績を得ている。又クロロキンの定量を行い、本療法におけるクロロキンの体内推移及び臓器分布を明らかにしている。

次に第2編において本症に対するクロロキンの作用機序を解明する目的で、本剤の薬理作用についてモルモットの摘出腸管、ラット後足の炎症性浮腫及びモルモットの受働性皮膚過敏症により検討を行い、抗セロトニン作用は認めないが、抗ヒスタミン作用、抗炎症作用及び抗アレルギー作用を明らかにしている。更に第3編においてクロロキンの線維芽細胞抑制作用について、鶏胎児心線維芽細胞及びL細胞の組織培養により検討を行い、強力な線維芽細胞抑制作用を認め、又本剤の線維芽細胞の呼吸抑制作用を明らかにしている。

以上の通り本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位の授与せられるべき学力を有すると認める。